

3ヶ月シリーズ講座	はじめての陶芸	講師 村上 光男 陶芸家
<p>土くれをこねて焼くと器になる、そんな単純な作業がこのうえなく楽しいのはなぜでしょう。入れ物を作るだけならどんな形でもどんな色でも良さそうなのですが、太古の昔から人はさまざまな文様や美しい色、そして形を作り出してきました。美しいものを作り出すからこそ人間だとも言えます。さあ皆さんもぜひ挑戦してみましょう。(エプロンとタオルをお持ちください)</p>		
<p>◇3ヶ月シリーズ講座 3月～5月 各日 18:30～20:00 定員 20名</p>		
<p>日時 3月12日(木) 「手びねりの基本」</p>		
<p>陶芸と一口に言いますが、実は陶器と磁気の種類があって、この2種は材料が違います。陶器は土ものといって伊賀焼とか信楽焼に代表されるようにゴツゴツした感じ。磁気は長石や珪石を含むので、基本真っ白で焼きが固く透明感があります。講座で作るのは陶器で、どんなに下手(?)でも、それなりのあじわいが出てくるので不思議です。にわか陶芸家になったようで気分がいいものです。一度挑戦してみませんか。</p>		
<p>4月9日(木) 「絵付け」</p>		
<p>前回作ったものに絵を描いてゆきます。絵の具のような呉須という青色の染料ですが、あまり深く考えずに思いのままに描いてゆけばそれはそれで良いのですが、やっぱりやるからには素敵にと細い筆と太い筆を使い分けて凝った絵付けをする方もいます。どんな柄にしようかと前もってプランを持っておくと良いのでは? アクセント用に緑色やピンクもありますよ。</p>		
<p>5月14日(木) 「打込型を使って」</p>		
<p>これはとても簡単です。すでに板状に伸ばしてある土を円筒形や四角形、皿型の型に押し当てて作ってゆきます。あとはごつごつした土の感触を残すか、または滑らかにするかが勝負です。この作品は絵付けはなくて色を指定して焼いてもらい、後日お渡しします。</p>		
<p>参加費 (3回分) 会員 7,350円 ビジター 8,850円(材料費含む)</p>		

6ヶ月シリーズ講座	伊勢根付づくりに挑戦!	講師 中川 忠峰 国際根付彫刻会伊勢支部長
<p>伊勢みやげとして一世を風靡した「伊勢根付」。これは朝熊黄楊という伊勢にしかない材料に恵まれていたからです。手で撫でているうちに色はあめ色に変化し艶を増し、すべすべ感がなんともいえない癒しをもたらします。刃物の使い方を覚えるためのペンダントトップ作成から始めて、先生の丁寧な指導のもと根付け作成へと進んでいきます。 ※彫刻刀セットをお持ちください、お持ちでない方はご相談ください。</p>		
<p>◇6ヶ月シリーズ講座 4月～9月(6回講座) 各日 18:30～20:30 定員 15名限定</p>		
<p>日時 4月10日(金) 7月10日(金) 5月8日(金) 8月21日(金) この回のみ第3金曜日 6月12日(金) 9月11日(金)</p>		
<p>参加費 (6回分) 会員 10,200円 ビジター 13,200円(材料費含む) ※作品により追加費用をいただく場合があります。</p>		

6ヶ月シリーズ講座	茶の湯 <small>そうだん</small> 雑談 その27	講師 浅沼 宗博 今日庵名誉師範・(社)茶道裏千家淡交会特別参事・皇學館大学現代日本社会学部特別招聘教授
<p>五十鈴茶屋製の季節のお菓子をいただきながら、茶の湯の歴史や点前の成り立ち、数々の茶人の逸話などを考察し、お茶の心やその精神性について、みんなで考えてみましょう。日常生活に生かされることがたくさんあります。(季節、進み具合など諸事情により講義内容を変更することがあります)</p>		
<p>◇6ヶ月シリーズ講座 4月～9月(6回講座) 各日 18:30～20:00 定員 20名</p>		
<p>日時 4月16日(木) 「茶の源流」① 一人類とお茶との出会い—</p>		
<p>お茶は三千年前から飲まれていました。人類との初めての出会いはいつ頃だったのでしょうか。日本で初めてお茶を飲んだのは誰でしょうか。また、この頃のお茶とはどのようなものだったのでしょうか。人物を中心に茶の歴史を考えてみましょう。</p>		
<p>5月21日(木) 「茶の源流」② 一利休の生い立ちと千家の成立—</p>		
<p>利休の先祖は、代々同朋衆として足利将軍に仕えていました。利休は17歳の頃に茶を学び始め、23～24歳の頃には宗易と称していたようです。利休の師、秀吉の茶頭、利休の自刃等生い立ちから利休の子、孫宗旦、そして宗旦の子と三千家の成立について考えてみましょう。</p>		
<p>6月18日(木) 「点前の意義」 一点前とは—</p>		
<p>お茶会に行き、お茶をいただくとき「お点前頂戴します」と挨拶します。「お点前」とは、どういう意味なのでしょうか。点前は宗教の集合体であり、それぞれの宗教の所作から成り立っているといわれています。ここでは点前の意味や意義について考え、点前ひとつひとつの所作の美しさや、その精神性について考えてみましょう。</p>		
<p>7月16日(木) 「点前の成立」 一点前の発生から台子発案の諸説—</p>		
<p>南方録によると「茶の湯の根本は台子にあり」といっています。台子発案の諸説や台子の点前がどのように発生してきたのかを考察することにより、点前の成り立ちを考えてみたいと思います。台子の点前は以前50種類ぐらありました。君台観左右帳記による茶の湯棚と「草人木」による台子棚を比較しながら、現在の点前がどのようにして成り立ったのかを考えてみましょう。</p>		
<p>8月20日(木) 「茶人の逸話」① 一利休の教え—</p>		
<p>利休にまつわる逸話は多数あります。風炉の灰形は利休が思いつきました。利休の茶の湯とはどのようなものであったのか、逸話を通して利休は何を伝えようとしていたのか、利休の感性や人物像について考えてみましょう。</p>		
<p>9月17日(木) 「茶人の逸話」② 一天下一の点前—</p>		
<p>茶事は4時間のドラマといわれています。この4時間を亭主と客は何を話していたのでしょうか。道具を知らない者は道具のことを話してはいけない、世間の風評や人の悪口もいけないと教えています。では、何が話し合われていたのでしょうか。それが茶の湯にまつわる逸話です。この逸話を通して私たちは茶道の心など、本当に多くのことを学ぶことができます。逸話のいくつかを紹介しましょう。</p>		
<p>参加費 (6回分) 会員 10,200円 ビジター 13,200円(茶菓代・材料費含む)</p>		

6ヶ月シリーズ講座	茶の湯、初めての体験	講師 浅沼 宗博 今日庵名誉師範・(社)茶道裏千家淡交会特別参事・皇學館大学現代日本社会学部特別招聘教授
<p>単にお茶を飲むだけの行為が芸術にまで高められた茶道、日本ならではと思いませんか? 習ってみたいけど…難しい作法はあるし、着物は着られないしと尻込みをしてしまいがちですね。「少しは触れておきたい」「日本人として、正しいお作法を身につけたい」など、茶道を習いはじめるきっかけは人によって様々ですが、始めてみると思っていた以上に楽しくなるのも茶道の極意です。大丈夫、浅沼先生がその人に合わせて優しく教えてください。生活にリズムをつけるためにも、ぜひ始めてみませんか?(袱紗など一式をお持ちください。また、先生のご都合により日時が変更になる場合がございます。)</p>		
<p>◇6ヶ月シリーズ講座 4月～9月(6回講座) 各日 13:00～15:00 定員 20名</p>		
<p>日時 4月18日(土) 「日常に生かされる茶の湯」①</p>		
<p>5月23日(土) 「日常に生かされる茶の湯」②</p>		
<p>6月20日(土) 「日常に生かされる茶の湯」③</p>		
<p>7月18日(土) 「日常に生かされる茶の湯」④</p>		
<p>8月22日(土) 「日常に生かされる茶の湯」⑤</p>		
<p>9月26日(土) 「日常に生かされる茶の湯」⑥</p>		
<p>参加費 (6回分) 会員 8,400円 ビジター 11,400円(茶菓代・材料費含む)</p>		